

---

## 本当にあったン年前の話

三九

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

本当にあつたン年前の話

### 【Nコード】

N3835M

### 【作者名】

三九

### 【あらすじ】

私が体験した実話を綴った、ビミョーに現実に忠実だったり忠実じゃなかったりするお話です。

結核の隔離病棟を改装して造られた健診部は、日中でも薄暗く、あまり人が来ない寂れた部署だった。

四月からそこに配属された私は、先日退職した先輩から引き継いだ業務を黙々と片付けていた。

最初の異変は四月。

健診の請求書を作成しているときに、頭上から何か黒いモノが降ってきたのだ。

驚いて振り払ったのだが、周囲には何も落ちていない。

確かに四十センチメートル四方の、箱のようなモノが落ちてきたのだが。

しかし、それは物理的にあり得ないことだったのだ。

何故なら、私が座っていたのは事務室の中央。

頭よりも高い位置に物を置けるようなものなど、なかったのだから。

その後も度々、不思議なことが起きた。

パソコンの画面に私以外の人影が映り込むなどしょっちゅうで、奇妙な音が聞こえたり、机が揺れたりすることもあった。

そしてあれは、梅雨入りした頃のこと。

私は健診用の伝票を作るために、窓口に立って業務をしていた。風もなく、しとしとと降るかすかな雨音だけが、私の耳に届いていた。

しかしそのとき、不意に突風が吹いたかのように、窓口のガラス戸がガタガタと盛大に揺れたのだ。

廊下の窓を開けっ放しにしまったのかと、身を乗り出して廊下を見た。

窓口よりもわずかに低い位置。

身を屈めるか、四つん這いにならないような低い位置を、何かが高速で通り過ぎていった。

一瞬のことだったが、私は見た。

あれは、長い黒髪の女だったのだ。

彼女が通り過ぎた後に一陣の風が吹き抜け、窓口のガラス戸がガタガタと激しく揺れた。

健診部の専属事務員は私しかいなかったので、他に彼女を目撃した人はいない。

彼女は何者だったのか。

それを知る者も、誰もいない。

END

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3835m/>

---

本当にあったン年前の話

2010年10月28日04時34分発行